

セントポール市姉妹都市提携 70 周年記念訪問に参加して

長崎市議会議員 向山宗子

8月21日から26日の4泊6日、日本初の姉妹都市であるアメリカ合衆国ミネソタ州セントポール市との姉妹都市提携 70 周年を記念しての公式訪問団の一員として同地を訪れた。

セントポール市は、ミネソタ州の州都で、ミシシッピ川の源流が流れる、森緑の美しい街だった。

セントポール市役所もミシシッピ河畔にあり、その隣にある宿泊先から美しい概観を望むことが出来た。

滞在した4日間、様々な行事に参加させていただいた所感を申し上げる。



【 第1日目 】

○長崎市とセントポール市との姉妹都市を提案したルイス・W・ヒル・ジュニア氏の祖父でグレートノーザン鉄道を敷設したジェームス・J・ヒル氏の邸宅と並んであるサミットアベニューの個人宅で開催された、ロータリークラブ姉妹都市委員会主催の歓迎夕食会に参加。セントポール到着後、すぐの歓迎会でもあり、暖かい歓迎をいただく。和太鼓の演奏では、一生懸命練習をされたことが伺え、真心と敬意を感じた。



【 第2日目 】

○セントポール市役所にカーター市長・ノッカー市議会議長を表敬訪問。

鈴木市長の祖父である田川務市長から続く交流の長さと意義を確認しあい、互いに平和の大切さ、未来へさらなる連携を約束しあった。子ども夢体験で参加した中学生の代表による英語でのスピーチも素晴らしく、カーター市長も感激されていた。

○セントポール市内をバスで視察。州議事堂、セントポール大聖堂、地球星座などを見学。国指定歴史的史跡に登録されているミネソタ州議事堂は、独立戦争や南北戦争等の歴史を感じる、素晴らしい堂々たる建造物であり、一般の方々の見学のほか、コンサートや結婚式も行われていた。博物館のような感じもした。このような歴史感の深い場所での議論は議員の側としても責任をさらに深く感じるだろうと思うほどの重厚感だった。

長崎市平和公園にセントポール市から寄贈された地球星座が設置されているが、その本体はセントトマス大学構内にあり、見学。子ども夢体験の中学生たちとともに写真撮影。

○セントポール・セインツ対ラウンドロック・エクスプレスの公式戦にご招待いただき、ゲーム観戦。市長と議長が始球式を行った。セントポール市は、アメリカの北部に位置しているため、冬が厳しい土地柄とのことで、夏の期間を最大に外で楽しむそうで、野球場は大変賑わっていた。ファンサービスが行き届いた、ゲームの合間の催しのほか、野球場自体がグループで使用できるバーベキューコーナーや子供の遊び場など様々な世代が楽しめるよう工夫しており、参考になった。



【 第3日目 】

○ミネソタヒストリーセンターにおいて開催された、平和イベント『破壊から友情へ：セントポール・長崎姉妹都市関係』に参加。鈴木市長は、被爆の実相や世界恒久平和の実現に向けた取り組みなどを講演したが、終了後スタンディングオベーションが起こり、拍手が鳴り止まなかった。子ども夢体験に参加した中学生 16 人による英語での『被爆紙芝居』が披露され、これもまたすごく拍手をいただく。その他、今年度セントポール市から長崎市へ招聘した高校生 2 人の長崎で学んだことの報告があり、平和記念式典やピースフォーラムに参加して「平和のために活動し、啓発することの重要性」を報告され、素晴らしかった。

また平和への誓いを話された女性の平和に対する熱い思いに触れ、感動した。

終了後の彼女との懇談の中で、私が被爆2世であり、父は20年前に癌で既に亡くなっていることを話すと、本当に申し訳なく思うと言ってくださり、心に響くものがあった。また、会場では原爆パネル展や長崎とセントポールの子供たちが描いたキッズゲルニカの完成品の展示もあり、このような民間交流の積み重ねこそが大切だと感じた。

○ナショナルスポーツセンター視察

セントポール・セインツの国際開発ディレクターをされている増渕さんにご案内いただき、主に18歳以下の子供たちのためのナショナルスポーツセンターを視察させていただく。全米No.1, 2の規模だという同センターは、広大な敷地にサッカー場、ゴルフ場、アイスホッケーの建物では、リンクが8つ。またバスケットボールリングが数多く並ぶ練習場や冬季、雪や雨でも使える屋内グラウンドなど全てが圧巻だった。日本からも優秀な人材を送ってほしいとの話も。スポーツに対する意識の高さなど学ぶことも多かった。

○コモ公園の視察後公式夕食会に参加。

公園には、戦後日本からワシントンへ送られた桜の木がセントポールにも30本寄贈されており、春には素敵に花を咲かせることだろうと容易に想像できるように整備されていた。姉妹都市交流50周年の折、設置されたグローバルハーモニーラビリンスの場所では、毎年、日本時間の8月9日に黙祷を捧げてくださっているとの事。また公園内には日本庭園があり、長崎市の樹木医、松田正美氏の指導の下、設計・建築が行われ、1979年9月に開設されたとのこと。開設は民間主導で行われ、松田さんも自費で渡米されたと伺い、感銘を受けた。

公園内の会場で行われた公式夕食会では、姉妹都委員会の方々やロータリークラブの方々などと親しく交流ができた。結婚や仕事を機に渡米し、セントポール市で根を張っておられる様子などを伺うことができ、平和の大切さは人と人との交流、文化の違いなどを肌で感じ、許容することが大事であることを痛感。今後もどこの国にいても、自由に暮らしていけるよう平和を守っていかなければと固く思った。



【 第4日目 】

○ミネソタ州フェア観察

ミネソタ州の夏の終わりに開催される農業を中心としたお祭りであるステートフェアは、様々な展示やショー、たくさんの出店がある巨大な食の祭典で、広大な会場には、移動のためのゴンドラや移動遊園地などが設置され、数え切れない参加者で大盛況だった。

フェスティバルでは、三世四世会の皆さんによる「長崎ぶらぶら節」の盆踊りに続いて、自動車に引かれたフロートに乗ってパレードに参加。長崎からのアピールに多くの市民の皆さんから温かい拍手と歓声をいただいた。

最終日の最後は、ロータリークラブの会員の方のマンションにて送別会を開いていただく。訪問を振り返り、様々に語り合った。真心のおもてなしに、心から感謝申し上げる。



【 総括 】

今回の公式訪問に参加させていただき、最も強く感じたのは民間の力と持続することの大切さです。まず両市の姉妹都市提携を提案した方も、ルイス・W・ヒル・ジュニア氏という民間人の強い信念と働きかけにより、官が動き、日本で初めての姉妹都市が誕生したこと。

この事を長崎市民にもっとお知らせるべきだし、忘れてはならない事です。

彼の言葉の中で、「市民同士の友情が深まれば、争いのない平和な世界を築くことができるだろう」本当にその通りだと思います。

70年という長い時の中で、両市の子供たちの交換留学やスポーツ交流、セントポール市シビックシンフォニーと長崎交響楽団との交流、両市の姉妹都市委員会の方々の交流がありました。この姉妹都市委員会の方々は、平和への熱い思いをもって活動しておられることを感動を持って学ぶことができました。これまでの70年の歴史を肌で感じることができたことが、今回の訪問で本当に良かった点であると思います。

人と人とのつながりこそ、また国を超えて、人種を超えたお互いの尊敬こそ、平和への第一歩だと痛感します。今後とも長崎市・セントポール市の交流の絆をさらに強く広げていきたいと思います。